

令和7年度第2回岐阜県総合教育会議 議事録

1 開催日時及び場所

令和8年1月23日(金) 10時00分 ~ 11時00分

オンライン開催

2 出席者

知事 江崎 禎 英

教育長 堀 貴 雄

委員 村 上 啓 雄

委員 打 江 記 代

委員 吉 田 香 央 里

委員 木 下 貴 子

3 オブザーバー

副知事 足 立 葉 子

総合企画部長 市 橋 貴 仁

副教育長 松 本 順 志

4 陪 席

教育次長 中 川 敬 三

義務教育総括監 青 木 孝 憲

総合政策課長 渡 部 達 弥

教育総務課長 野 中 正 史

5 議事録

別紙のとおり

## 議 事 録

発 言 者	発 言 内 容
総合企画 部 長	<p>それでは、ただ今より総合教育会議を開催する。</p> <p>本日は雪のため急遽ウェブ開催とさせていただき、ご対応いただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>なお、本日はマスコミの皆様や一般傍聴の方に公開しているため、あらかじめご承知おきいただきたい。</p> <p>本日の会議では、国の高校教育改革に関する基本方針及び岐阜県の高校における現状を教育委員会事務局より説明いただいた後、今後の高校教育改革の方向性について委員の皆様よりご意見を賜りたいと考えている。</p> <p>それでは、早速ではあるが、教育委員会事務局よりご説明をお願いします。</p>
国の高校教育改革に関する基本方針及び岐阜県の高校における現状について	
副教育長	資料1～2、参考資料1～4により説明
総合企画 部 長	続いて、知事から高校教育改革についての思いや考えをお聞かせいただきたい。
知 事	<p>今、教育委員会事務局から話があったように、国を挙げて教育のあり方を見直すタイミングに来ているのかと思っている。国際情勢を見るまでもなく、日本の人口構造についても今までとは違い、大きく変わってきている。このような社会に向け、これからは担う子どもたちはどのような学びをしていくのか、これに尽きると思っている。</p>

私は、資料1の「経緯」に記載されている最初の言葉である「強い経済」がヒントだと思っている。強いとは何か。いろいろな激動、これからの変化、未知の社会状態に対して、子どもたちが強く生きていくために、何を学び、どのような能力を身に付けていくのかということが、まさに教育の根幹だと思っている。

もちろんこれは、いつの時代でも同じだと思うが、特に今は、AIが出てくることによって、これまで知識をたくさん持っていることが強さだったかもしれない時代の中で、AIに代替されてしまう能力ではだめなのかもしれないという新しいテーマが出てきている。

そして今、高校の授業料の無償化によって、私学、これはざっくり言ってしまえば特色がある学校であると同時に、入試に非常に強いという点において受験生にとって魅力があり、無償化により非常に進学しやすくなる中で、今後、公立はどのような役割を果たしていくのかという、今までなかったテーマに我々は向き合うことになっていく。

そのような中、私は昔から「普通科」という言葉に「普通ってなんだろう」と随分悩むことがあった。私たちが若かった頃は、大学が入ることが目的で、今度は企業に就職した後に、企業でもう1回再教育をしてくれるから、学部はいつでもいいというような雰囲気は全くないわけではないことを正直感じていた。

一方、高校の教育のあり方は、どうしても大学の入試の方式に引っ張られてしまう。本日の議論はまずはキックオフなので、高校がどうあるべきか、ということと同時に、大学のあり方にも少し触れていただいても良いかと思っている。

かつてのように、企業は、良さそうな人材を採用してから再教育するという余裕がなくなっている中で、どういう人材が求められているかということも、もう1回考える時期であると思う。

そのような中で、高校時代を改めて見直してみると、「人生を考える一番大切な時期」

	<p>であると考えている。そのような時期に、材料を提供するのが高校の1つの役割であると思っている。義務教育が終わり、大学進学で専門に向かうにあたり、自分の関心や能力を自分の中で整理していく大事な時期であると個人的には思っている。</p> <p>そして何より大事なことは、「学びは楽しい」と感じてもらうということ。嫌々学ぶのではこの時期をもったいないものにしてしまうことになる。そうなると、これからの高校は、教え方や学んでもらい方に工夫がいると考える。</p> <p>そのような中で、岐阜県の特徴の一つとして専門性の高い学校が多いという説明が先ほどあったが、これは大事なことである。知識を得るだけならどこでもできる。これはまさにAIに取って代わられるものとなる。しかし、体験をする、感じるということは、なかなかAIに置き換えられないのではないか。</p> <p>そうしたことを考えたとき、この岐阜県は、自然もあり、フィールドもあり、いろいろなことができる。よって、都会の中の議論ではできないこともできるかなと思っている。私自身も答えがあるわけではないが、これからの時代を生きていく子どもたちが、本当に力強く生きていくために、我々がどういう環境を提供するのか。そのような視点から皆様から忌憚のないご意見をいただければありがたい。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>総合企画 部長</p>	<p>それではここから約30分間意見交換をさせていただきます。</p> <p>教育委員会事務局から説明させていただいた内容や、方向性について、教育委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
<p>意見交換</p>	
<p>木下委員</p>	<p>私は、国が示す3類型の中で一番重要と思ったのは、理数系人材の育成支援である。理由としては3つある。</p> <p>まず1つ目は、資料1の「高校改革の方向性」にある「AIに代替されない能力や個性の</p>

	<p>伸長」は、私は根幹的に大事であると思っている。多治見市には、アマゾンの配送センターがあり、アマゾンのロボティクスの研究先進開発責任者であるジョーイ氏が多治見北高校に講演に来てくれたことがある。その時の、「ロボット開発で大切な考え方は問題をどう解決したらいいか」という言葉が印象的であった。ジョーイ氏が通っていた高校の数学の先生は、現実の社会でどのように数学を使って問題を解決するかということを見せてくれたという。物理や数学の学びがどのように社会とつながっているのかが分かって楽しかった、という話をしていただけだ。</p> <p>今後どのような社会になるか分からない中で、AIに代替されない能力や個性を伸長することは、どのようなエッセンシャルワーカーになったらいいかということも含めたエッセンシャルワーカーの育成においても、大事なところだと思った。</p> <p>2つ目は、公立高校の強みについて考えた。私立高校の無償化が進む中で、私立高校の文系はやはり有利になっていく可能性があると思う。一方で、公立高校の特色を出すことができるのは理数系の部分であると思っている。</p> <p>3つ目は、国が高校改革の方向性として示す「一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保」について岐阜県では、義務教育においても力を入れ、成果を挙げている事例がある。その1つとして、学びの多様化学校に指定されている岐阜市立草潤中学校では、多様な子どもたちの学びの場を確保している。この部分を重点的にやっていただけると、岐阜県の教育を包括的に推進できるのではないかと考えた。</p>
打江委員	<p>飛騨地区においても少子化が加速し、やはり地域の人々の変化や人口の変化等、様々な不安な状況の中で私たち企業も、地域の子どもたちや学校などのことを見守っている。少子化等の喫緊の課題がありながら、地域の子どもたちにどのような郷土の景色を残してあげられるかについては特に考えている。</p> <p>飛騨高山高校の飛騨牛を育てる動物科学科の映像を拝見した時のことを話す。映像</p>

には、毎日毎日、手塩にかけて育てた飛騨牛を出荷し、品評会に臨む生徒の姿が映っていた。その生徒は、涙を流しながら、出荷される牛を見守っていた。毎日愛情をかけて育てた牛が出ていく。私はその生徒が、産業に向かう厳しさや悲しさだけでなく、産業を大事にしていくという志を立てたのではないかと感じた。またその生徒は、県外ではあるが畜産について学ぶことができる大学に進むことを決意されたそうである。このように地域産業と関わることで、生徒がいろいろな志を立て、じっくりと考えていく。そういうことがとても大事だと感じた。

また、弊社においても、小学生の校外学習や、高校、特別支援学校の生徒の実習、さらに、去年から定時制の生徒にも工場を見学してもらっている。本当に元気な児童や高校生が一生懸命に見学や実習を行う姿を目にすることで、私たち企業側も、力をいただくことが多いと感じている。地域産業を支える人が毎日一生懸命に仕事をする姿や生き様を見て、生徒も感じることは多いのではないかと思っている。

一方で子どもたちが、じっくりと考える時間を確保できているかどうかを危惧している。自分の中に多様な経験や体験を積み、そこでじっくり考えて、志を立てていくことはとても大事だと感じている。

また、飛騨地区には様々な高校があるが、例えば飛騨神岡高校のロボット部や文芸部も一生懸命に取り組んでいる。神岡町には、カミオカンデというノーベル物理学賞をもたらした実験装置がある。そこで、宇宙に関わることができたら素晴らしいと感じている。遠隔での授業などにより、子どもたちの世界が広がるのではないかと思っている。

宇宙といえば、高校時代に物理を学習していた際に、高校の先生が宇宙線のことを一生懸命話して下さったことを覚えている。その時は訳も分からず先生の話聞いていたが、何十年経っても忘れられない話になっている。

高校の先生が、自分の専門性を熱く語るということは、生徒の心に響くのではないか。

	<p>だからこそ、高校の先生には、自分の専門分野について、生徒に教えてもらえればと思っている。自分の考え方や感性に自信を持って、自ら考え、様々なことを解決していく能力を高めていくことが必要であると考えている。</p> <p>来週は、飛騨地区の高校で、探究学習の発表会がある。そのような場に行き、高校生が地域の課題を解決する学習や、地域の企業と一緒にあって、探究する姿を見ると、本当に素晴らしいと思う。私たちも、そうやって一緒に考えて、ぜひとも生徒たちの力になることができたら、と考えている。</p> <p>高校においてはこのように体験を積みながら、じっくりと考えていくことが必要であると考えている。</p>
村上委員	<p>3つ意見がある。</p> <p>まず、「AIに代替されない能力」という言葉が、個人的には気になる。AI等は恐ろしいものだ、人類に取って代わるものだと言う方もいる。我々、医療界においても、業務にAIが導入されてきている。私も毎日、500 から 1000 例ほど胸の写真を読む際に、まずAIにかける。AIにかけると、医者の仕事がなくなるのではないかと言う先生方もいるが、私はそうではなく、AIは自分たちが見つけられないところを補完してくれる、我々のパートナー或いはアシスタントだと思っている。</p> <p>「AIに代替されない能力や個性の伸長」というよりかは、AIやICT、SNS等を適切かつ有効に使いこなせるような能力を、高校生のうちに磨いておくべきであるということを主張したい。</p> <p>今、政治においても、YouTube 等の一部には、不適切な情報がある。適切な情報も多いと思うが、不適切な情報に惑わされないような能力も含めて、AIを適切かつ有効に使える能力を高校のカリキュラムに加えていただければと思った。</p>

	<p>打江委員も言われたが、高校生がいろいろなもの楽しく取り組むという点においては、部活動は有効な活動であると考えている。部活動の運営がなかなか厳しくなっていると聞いているが、ロボット競技のように全国大会に挑戦するなど、何か競争があると、楽しく、生き生きとする。</p> <p>大学生になると、個々が大事になるため、高校では部活動なり、学校を挙げて物事に挑戦するということを大切にしていきたいと思う。やはり学校を挙げて、一番を目指して取り組むことは、高校ならでのことではないかと思った。</p> <p>それから、私は長年産業医をやっており、メンタルの指導も行っている。生徒指導については、これまでは校則に関する指導や進路指導などが多かったように感じている。今はどのような指導が多いかは認識していないが、やはりメンタルサポート体制、すなわち多様な背景を持った生徒同士でどのようにコミュニケーションを取るかというようなことに対して相談に乗ることができる体制を、もっと強化していきたい。</p> <p>以上3点をお願いしたい。それから1点質問がある。</p> <p>アドバンスト・エッセンシャルワーカーの確保については、我々も直接関わるため、ぜひお願いしたいと思っている。岐阜県として現時点で方針があるのであれば教えてほしい。</p>
教 育 長	<p>アドバンスト・エッセンシャルワーカー等の育成支援については、岐阜県は他県と比べ専門科の割合が多い状況であり、なおかつ、専門科で学んでいる内容については、全国の専門科に比べてかなり高度であるとは私に思っている。</p> <p>当然、国は全国的な大きな傾向の中で、こうした方針を立てているため、グランドデザイン(仮称)の骨子を読むと、岐阜県はどうするのかと非常に分かりにくくなるが、私は、アドバンスト・エッセンシャルワーカー等の育成の部分は、岐阜県は全国と比べ先行していると捉えている。皆さんにもそのように認識していただきたい。</p>

	<p>そうした中で、今回説明させていただいたように社会がどんどん変化している。高卒で対応できるような部分においては何ができるのか、専門科から大学へ進学する子どもたちに何を教えていくのかといった点を考えていく必要があると思っている。</p>
村上委員	<p>よく分かった。個人情報保護の観点から、生徒がどのような進路を歩んでいくかについて調査するのは難しいとは思うが、岐阜県の高校を卒業した生徒が、どれぐらいエッセンシャルワーカーになったかというような数字を出していただくことで、状況を的確に把握できるのではないかと考えている。そのため、数字で議論していくことが良いのではないかと考えている。</p>
教育長	<p>おっしゃるとおりである。高校卒業後の進路については、学校基本調査で把握することができる。しかし、大学や大学院等を卒業した後については把握できていない状況である。これは、各県も同様に課題だと思っている。</p> <p>私どもとしても、問題意識を持っているため、そういった点を追求していきたいと思っている。</p>
吉田委員	<p>「強い経済」に向けた高校教育改革のグランドデザインに対して、企業としての観点から、思ったことをお話しさせていただく。</p> <p>まず、「強い経済」を実現するということは、日本の今の状況に対してとても必要なことだと思う。教育と企業界・ビジネス界は切っても切れない関係にあると思っている。大方の岐阜県出身の方が、他県に出ても岐阜に戻ってきて働くようになると良いと思っている。</p> <p>私は、岐阜は地政学的にもすごく良い場所だと思っている。日本の真ん中に位置していることとともに、昨今、災害による被害が大きくなっている中、私は、岐阜の災害リスクは他県に比べてかなり低く、企業の拠点を置くのには安心なエリアではないかと捉えている。また資源もたくさんあると思っている。</p> <p>私は材木の業界にいるが、材木だけではなく、建築資材を含めたところに関して、岐阜</p>

県は全国に出荷するものを作っている会社が大変多く、全国の中でも注目されているエリアである。

もっと「強い経済」にしていく中で、AIの発達により、都会に出なくてもできる仕事が、今後、一層増えていくと思っている。だからこそ、地方の未来は、AIが発達し、海外と容易にアクセスができるようになることで、さらに希望を持つことができるようになっていくと、私は捉えている。

そのような中で、子どもたちにどのような教育を行うかについては非常に関心がある。知事が言われた方向性、すなわち、個々の興味など多様な学習ニーズに対応した高校教育については大賛成である。

今は、小学生に対しても、中学、高校の教育に対する情報が充実している状況である。特に、私立学校からの情報は多く入ってくる。私立学校の場合は、中高一貫も多く、情報発信力はすごいと感じている。私立の中学、高校では、学びの多様化についてすごく押し出しているように感じる。学校ごとに、外国語教育、国際教育、情報教育等に重点を置き、学校の授業の中でも座学だけでなく、仕事に関わることまで体験的に学習できることが発信されており、子どもたちが本当に目指したい方向に沿った学校選びができるようになっている。そのような中で、公立のあり方は、私としても考えるところがある。

私自身、地元において企業人として働いていると、公立学校の良さを強く感じている。それは人のつながりという点である。人と人のつながりで経済はできていくものだと日々実感している。だからこそ、公立高校でもっと学びの多様化が推進されれば、生徒が偏差値や学力で学校選択をするのではなく、この学習をしたいからこのコースがある高校へ行きたいと思うことができるように、学校の特色等を明確に出していけば、それぞれの学校の人気等が変わってくるのではないかと思うところがある。私立学校は発信力や説明会の回数等が公立学校と比べ違うと思っている。公立学校の情報については、なかなかアク

	<p>セスがしづらい。公立学校が私立学校と全く同じようになるとは思わないが、やはり生徒も保護者も発信される情報から選択していくことになるため、情報提供の方法についても、皆さんと一緒に議論していきたい。</p> <p>「強い経済」というところについては、岐阜県として、他県と勝負していくことができる余地があると思っているため、今後、教育の多様化をどのように進めていただけるのか。また、AI等を活用することで、地方にいながら都会や海外の仕事をするなども容易になっていくように感じているため、このような未来も見据えて、いろいろ考えていただけるといいと思っている。</p>
<p>総合企画 部長</p>	<p>ただいま4人の委員の皆様からご意見をいただいた。執行部においても、ご発言があれば、願います。</p>
<p>知事</p>	<p>今、各委員の方からすごく大事なキーワードをいただいたと思う。総括すると、やはり人との関わりや、村上委員が言われたように、高校で学校を挙げて頑張るという経験は大切であると感じている。</p> <p>今は、どうしても「個」の時代になり過ぎている。「今だけ」「金だけ」「自分だけ」というのは戦争につながる一番大きな要因だとよく言われていた。自分の属している学校を応援するために熱くなるというような集団行動をもっと身近に感じつつ、他者の気持ちを察するソーシャルスキルを完成させるタイミングが高校なのかなと考えている。その上で大学において専門性を学び磨くという流れになるかと思っている。ソーシャルスキルトレーニングは社会人として最も重要な能力である。</p> <p>このあたりについて委員の皆さんは社会人としてのご経験の中で、本当に大事なところだと思っておられると思う。そのようなことを思うと、高校における教え方はすごく大事であると感じたところである。</p> <p>村上委員が発言されたように、AIを使いこなす能力についても、どのようにしたらこの</p>

	能力が高まるのかについて、まさに我々も考えていかななくてはならない問題だと感じた。
総合企画 部 長	委員の皆様いかがか。
木下委員	高校の探究学習において、地域の事業主の方と共に地域課題を解決することで、地域への愛着も生まれ、地域で働きたいという思いにつながるのではないかという話を聞き、今後、このような課題解決の学習を地域の事業主と一緒にできる機会が一層増えたら良いと思った。
総合企画 部 長	それでは、皆様の議論を踏まえ、教育長と知事からご発言をいただきたい。教育長からいかがか。
教 育 長	<p>4人の委員の皆様へ感謝する。膨大な資料をしっかりと読み込んでいただき、それぞれのご意見をまとめていただいたことに対して感謝する。教育委員は少なくとも月に1度は、こうした集まりがある。またその都度、様々な意見をお寄せいただければ幸いである。</p> <p>冒頭に木下委員から発言があったように、理数系人材の育成については非常に大事だと私は思っている。文部科学省も、普通科の文系と理系の割合を理系4、文系3にしたいという意向があるようである。</p> <p>最近、景気が少し良くなったので、大学への進学傾向が、例えば文系3科目に絞ることで、より偏差値の高い大学行くことが将来の安定につながるという記事を読んだことがある。国の意向や、今議論したような世の中の思いについては、誰も否定するところではないと思う。しかし、子どもや保護者が、自分自身の進路選択の際に、何を学びたいかを考えることができない現実があると私は思う。</p> <p>学校の活性化について地域で協議会等を開くと、生徒の祖父母世代が集まり、地域の思いを語る場面がある。そのような場で私が伝えるのは、生徒の親世代はどのように思っているのか、どのような問題意識を持っているのかということ。私は、当事者の意識</p>

をどのように、国の方向性、あるいは、私たちが今考えている方向性に向かわせていくのかといった部分が大事であると思っている。

わかりやすく言えば、5教科の勉強をして、偏差値 50 から 55 の大学等へ行くのか、3教科に絞って 60 から 65 の大学等へ行くのかというようなことが、新聞でも書かれていたので、当事者の意識をどのように変えるのかといった点が、私は1つ大きな課題だと思っている。

また、本日の話の中で公立学校の使命について考えたところである。私立高校の無償化といっても、私立高校も大学も経営というものが必ずあると思う。やはり公立は税金によって運営していることから、損得のないしっかりとした教育を実践していく必要があると思っている。

県が抱えている様々な施設、機関、取組も、やはり公立だからこそできる部分というのが私はあると思う。一番わかりやすい例で言えば、特別支援学校などは、まさにそうだと思う。子どもの数とほぼ同じだけの教員を配置して、必要な施設を作っていることを考えると、私は、公立学校や施設等が担う役目といったところは、そういったところではないかと思う。

そうした中で、国の予算を活用し、私はもう待たなしに高校教育改革をやらないといけないと思っている。本日いただいた意見、そして今後産業界等からの幅広い意見を聞き、具体的な計画に着手する必要があると思っている。

実は、他の都道府県においては高校教育改革がすでに動き始めているところもある。岐阜県は少し遅れているが、私は、公立学校全体の改革を大きく展開できるチャンスだと捉えている。今後、検討が行われるので、委員の皆様方においては、忌憚のないご意見をその都度いただければ幸いです。

総合企画 部長	最後に、知事から。
知事	<p>改めて大変お忙しいところ貴重なご意見を賜り、感謝している。委員の皆様方は、物事の本質を捉えていると改めて感じたところである。</p> <p>実は、私は国にいるとき、教育改革の担当審議官であり、「未来の教室」という事業を行っていた。その時にも言われていたが、今は、偏差値・学力で進路を選ぶ社会になってしまっている。だから、「もう少し頑張ると、この大学に行けるよ」などと、保護者も先生も薦めてしまっている。</p> <p>それはなぜかという、学力が高い方が幸せになれるという一種の社会的価値があったからである。そうすると、一斉教育というのは効果があったのかもしれないが、その中の本質論として、「教育は誰がつくるのか」という議論の中で、地方行政や文部科学省が頑張って教育の形を作るのではなく、幸せの形によって教育の形が決まる。これまでは、生徒本人ではなく、保護者や先生が考える幸せの形によって教育の形が決まっていた。当然、保護者がそれを薦めるし、先生も薦めるし、保護者はそれにお金を払おうとする。それが今の教育を作ってきた。</p> <p>今後は何をしなければいけないかという、幸せの形を多様化しなければいけない。成績が良くなければ幸せになれないという形にするから落ちこぼれという議論が出てきてしまう。そうではない方法をどうやってやるのかというのが本質だという議論をしていた。</p> <p>やはり高校のうちから、幸せの形に触れる機会を持つことが大事であると考えている。先ほど委員の方から意見をいただいたが、社会課題の中で、自分が学んだことが、どのように社会に生かされていくかということ、それを見つけることが学ぶ喜びであり、そこから今度は何を学びたいか、そしてどのような社会課題を解決していきたいかを考えることができるような体験ができるようにしていくことが高校の大きな役割だと感じている。岐阜</p>

県知事となり、まさにこれを実現したいと思っている。

そしてもう1つ。かつてとの一番大きな違いは人生 100 年時代であるということ。100 年もあるのに、何でたった1つの幸せの形だけを追い求めて苦しまなければいけないのか。2つ、3つあっても良いのではないかと思う。したがって高校のうちは、1つの人生を選ぶというのは過酷だと思う。だからこそ、様々なことに興味・関心がある子どもたちに対して、知識としてではなく、地域と関わり体験をすることが重要である。

先ほど委員からのご意見にあったように、先生の熱い思いに加え、各現場で頑張っておられる社会人の方々の熱い思いを生徒たちに感じてもらうことによって教育の形を、改めて今作り直していく時であると感じている。

本日はもちろん高校の話がメインである。しかし、先般お話をさせていただいたが、やはり、小・中学校も含めて、今までは読み、書き、そろばんを効率的に教えるということからすると、一律一斉に受け身で教えていくという1つのあり方、これは間違っていないと思う。だからこそ、世界で一番識字率の高い国を作ってきたと思うが、まさに社会が大きく変わろうとしているし、子どもたちの能力も様々になってきている中で、そうした子どもたちが一律一斉でない、多様な学び方が必要であると考えている。

一方で、大事なものは人とのつながりということをしっかりこの時期に学んでおくということである。自然とつながる、動物とつながる。そして、生きることの意味等を考えるには、都会の真ん中の議論だけではなく、先ほど吉田委員からあったように、この岐阜県の強みである、自然があり、災害も少ない中で、何を実現していったら良いのか。まさに改めて岐阜県は教育県として、全国に名乗りを上げたいと思っている。

小・中・高等学校も含めてこれからの時代を強く生き抜く子どもたちを育てていきたい。社会課題の解決にあたり、ここはAIを使ったら良いのではないかと考えることができる環境の実現に向けて、これから岐阜県は教育のあり方を、まさに全国に発信していきたいと

	思っている。引き続き、委員の皆様方のご知見やご経験をお借りできればと思うので、よろしく願いしたい。本日はありがとうございました。
総合企画 部長	これをもって総合教育会議を終了する。本日はお忙しい中、ありがとうございました。